

1 実践の概要

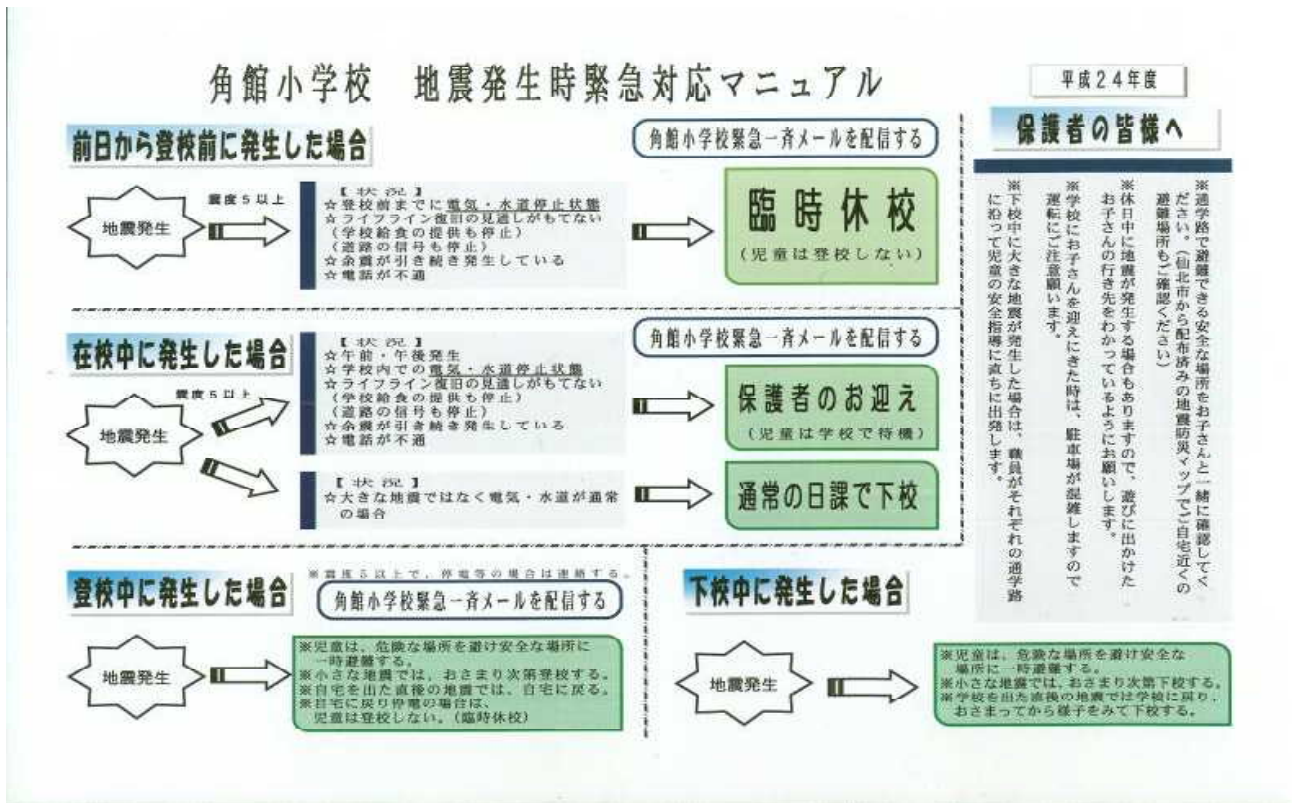
実施校・園	仙北市立 角館小学校	
タイトル	授業中の地震発生時、停電で放送設備が使用できない場合の訓練	
実施月日(曜日)	5月23日(水)	
実施場所	角館小学校校地内	
想定	時間帯	授業時に発生し、担任が誘導する。
場面	災害の種類	内陸南部を震源とする大きな地震(震度5~6)が発生し停電した。
参加者	児童(498人)職員(43人)	

2 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦勞した点●
<p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「県民防災の日」(5月26日)設定の経緯を知らせ、進んで訓練に参加しようとする意欲を高める。 ・おはしの約束(おさない、はしらない、しゃべらない)を守り真剣に取り組むようにさせる。 ・避難経路、安全な避難の仕方を確認する。(経路図の参照) ・放送の聞き方について理解させる。 ・停電のため放送が機能しない時の対応の仕方を理解させる。 ・常にズックをしっかりと着用するよう指導する。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示に従い訓練を行う。 ・訓練の講評を聞く。 ・ズックの底を拭き、教室に入る。 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の仕方について話し合う。 ・諸注意を守り、安全に避難することができたか振り返りカードを用いて自己評価させる。 ・家庭にいるとき、登下校時、休み時間等状況に応じた避難の仕方について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による地震の話や写真を見せて地震の恐ろしさを感じさせるようにした。2011年3月11日の東日本大震災の時は角館町も電気や水道が2日間にわたり使用できない大変な状態であったことを思い起こさせた。 ○避難経路に歩行の邪魔になっているものがないか、事前に確認する。(臨時の安全点検) ○常備品(トランシーバー、ハンドマイク、本部旗)の置き場所の確認。 ●児童玄関ドアが自動的に閉まる型なので、行列の通行途中で押さえないならなくなるため、開放状態にする必要がある。そこで、手作りのドア止めを使用する。 ○外に出たときは、なるべく校舎から離れた経路を選び、避難場所に行くようにした。 ○児童の振り返りカードと先生方の反省記録をもとに改善を要するところを確認した。 ○学校報や角館小学校ホームページに訓練の様子を紹介し、保護者へ危機管理意識をもたせることができた。

※マニュアルの主な工夫点

- 1 学校対応が分かるように、毎年全家庭に配布
- 2 学校での引き渡し必要時の保護者への一斉メール配信
- 3 スムーズな引き渡しのための1階の3箇所への全児童の待機
- 4 登校中、下校中に地震が発生した場合の対応方法



3 成果と課題

成 果	<ol style="list-style-type: none"> 避難訓練の放送が途中で途絶えたという想定で、本部からの指示においては各階の担当者がトランシーバーで受けて、ハンドマイクで各フロアの教室に指示することができた。 学級担任が児童へ冷静に指示をすることができ、児童498人の避難が短時間で完了することができた。 評価方法として、児童振り返りカード、職員反省カードに記入し、避難訓練担当者から集計したものを職員会議等で報告した。改善ポイントを共通理解し、児童への安全指導に役立てた。
課 題	<ol style="list-style-type: none"> 地震による学年の集団避難経路は決まっているが、担任が誘導しただけのことである。何故このルートなのか児童への説明が必要に思った。火災における避難経路は、出火場所によっても変更されるので、危険回避のための方法・手段を児童に判断する能力を育てることが必要に感じた。 緊急時に使用するトランシーバーや拡声器の電源チェックを定期的に点検することが必要である。
今後の継続予定	<ol style="list-style-type: none"> 休み時間の避難訓練と災害時における保護者への子ども引き渡しなどの訓練を実施することも必要である。 地域総ぐるみの防災避難訓練に学校も参加し、児童には、危険回避、安全第一、集団行動の厳守などを体験させたい。